

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、栽培面積は漸減傾向】

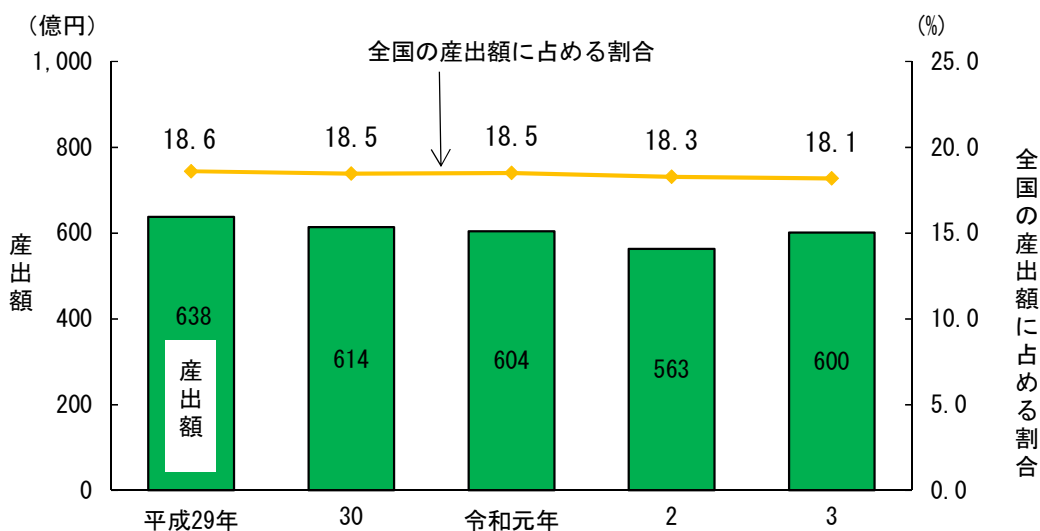
九州における令和3（2021）年の花きの産出額は、全国の18.1%を占める600億円で、前年に比べ産出額が回復しました。これは、令和2（2020）年には、新型コロナウイルス感染症の影響により、冠婚葬祭等のイベント自粛から業務用需要が減少していましたが、徐々にイベント需要等が回復していったことや、家庭用需要（ホームユース）の増加等が影響したものと考えられます。

一方、令和3（2021）年産切り花の作付面積は2,340haで、前年に比べ29ha（1.3%）減少しています。生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年漸減傾向で推移しています。

出荷量は6億5,250万本で、前年に比べ600万本（0.9%）減少しているものの、そのシェアは全国の20.1%を占めています。

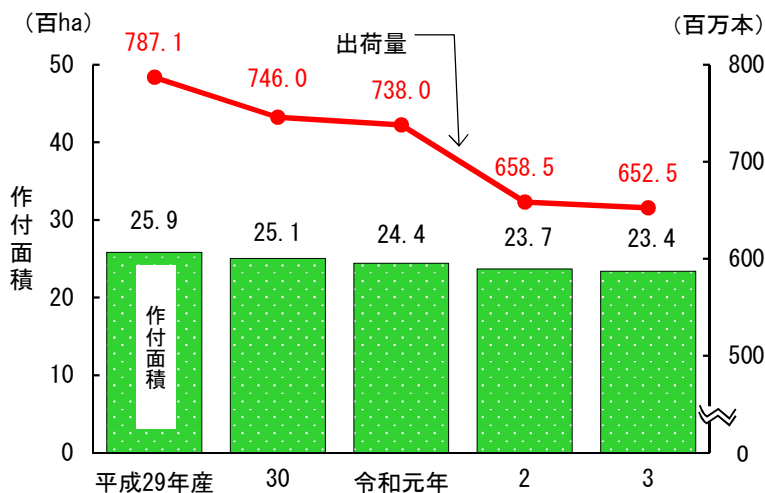
県別の出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の45.8%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和3（2020）年産花き（切り花類）出荷量の全国及び九州内割合

